

村川 満教授記念号によせて

社会学部長 牧 正 英

村川 満先生は、1970年4月、関西学院大学社会学部専任講師に就任されて以来29年の長きにわたり、関西学院の教育と研究に尽くされました。社会学部一同は先生のこれら点に関して深い感慨を覚えております。村川 満先生はこれから関西学院大学名誉教授として関西学院や社会学部の発展にお心をかけていただくこととなります。

村川 満先生は、1954年3月、京都大学文学部哲学科西洋哲学史専攻を御卒業後、1957年3月に、京都大学大学院文学研究科哲学専攻修士課程を終えられ、その後京都大学大学院文学研究科において、英語英文学の研究もされました。

1967年から橘女子大学専任講師を務められ、1970年4月には、関西学院社会学部専任講師に就任されました。そして、1971年社会学部助教授、1977年社会学部教授となられ、1999年3月に関西学院大学名誉教授の称号をえられました。

先生の研究分野は、ギリシャ哲学・中世哲学であります。そのなかでもとくにアウグスチヌス哲学を中心としてギリシャ思想とキリスト教が絡み合いながら発展してきた西洋思想の流れを捉えることを根本的な課題としてこられました。そして、そのなかで研究領域やテーマを拡大しながら、英文学では、17世紀のジョン・ミルトンの研究から、その背景となるイギリスのピューリタニズムの研究に進まれました。そして、さらにピューリタニズムの根幹をなすカルヴィニズムを考究するところから、根源であるカルヴァンにさかのぼり、カルヴァンからイギリスのカルヴィニズムへの流れとその発展を研究してこられました。このことはおのずから近代の成立と発展という問題と結びつき、その関係からマックス・ウェーバーにも関心を持ってこられました。

先生の研究業績は、学術論文14編、書評1、辞典項目3、学術講演6回であります。その研究業績のなかで上で述べましたカルヴァンとカルヴィニズム、マックス・ウェーバーに関する学術論文の代表的なものは、1987年と1989年の「カルヴァンと『ウェストミンスター信仰告白』の信仰論」、(I)と(II)であり、そして、1998年の「マックス・ウェーバーと『ウェストミンスター信仰告白』」であります。

先生は教育面でも大きなお働きをされました。社会学部名誉教授の西尾 朗先生、同学部名誉教授の半田一吉先生の跡を継いで社会学部英語教育のまとめ役としての責任を果たされ、同時に英語カリキュラムの改革に尽力されました。そして、宗教教育委員会委員と